

MACF 礼拝説教要旨

2022年2月13日

【新しいぶどう酒は新しい革袋に】

5:33 人々はイエスに言った。

「ヨハネの弟子たちは度々断食し、祈りをし、ファリサイ派の弟子たちも同じようにしています。しかし、あなたの弟子たちは飲んだり食べたりしています。」

5:34 そこで、イエスは言われた。

「花婿と一緒にいるのに、婚礼の客に断食させることがあなたがたにできようか。」

5:35 しかし、花婿が奪い取られる時が来る。

その時には、彼らは断食することになる。」

5:36 そして、イエスはたとえを話された。

「だれも、新しい服から布切れを破り取って、古い服に継ぎを当てたりはしない。そんなことをすれば、新しい服も破れるし、新しい服から取った継ぎ切れも古いものには合わないだろう。」

5:37 また、だれも、新しいぶどう酒を古い革袋に入れたりしない。そんなことをすれば、新しいぶどう酒は革袋を破って流れ出し、革袋もだめになる。

5:38 新しいぶどう酒は、新しい革袋に入れねばならない。

5:39 また、古いぶどう酒を飲めば、だれも新しいものを欲しがらない。『古いものの方がよい』と言うのである。」

当時の宗教指導者たちとイエス様との会話が記録されています。

いつの時代にもあるような会話です。

要旨は「他の宗教指導者たちの弟子たちはそれぞれ宗教的な徳目を身につけるべく一生懸命、断食や祈りに専念しているのになぜ、あなたの弟子たちは「飲んだり食べたり、日常的な楽しみ」に専念しているのですか？」

もっと真面目にやったらどうですかと言わんばかりの勢いです。

宗教者、宗教指導者の常識としては、世の中のことに振り回されず、飲み食いなどには興味を持たず、しっかり修練に励むべきだということが主張されています。

ある意味で、当然と考えられる主張です。

それに対してイエス様は3つのたとえを用いて状況の説明とあるべき形について返事をしています。

1) 花婿と友人たち

5:34 そこで、イエスは言われた。

「花婿と一緒にいるのに、婚礼の客に断食させることがあなたがたにできようか。」

5:35 しかし、花婿が奪い取られる時が来る。

その時には、彼らは断食することになる。

イエス様は神の前に自分を整える意味での断食や祈りを否定してはいません。

しかし、ここではご自分のことを「花婿」にたとえ、弟子たちのことを婚礼の客に置き換えて語っています。

つまり、花婿が来ているのに、楽しもうとしないのは不自然だしその嬉しさを共有することこそ、大切なことだということです。

やがて、十字架による死を彼らは目の当たりするわけですが、そのときには悲しみの中で食べられなくなり、また心を整えるための断食もするようになるだろうと語られています。

今は、一緒に楽しみ喜ぶ時、しかし、それができない時、出来にくい時がやってくる。そのときには「断食をし、祈り、いわゆる宗教家たちが勧めているような徳目について自ら考え実行するようになるはずだと教えているのです。」

私たちは、断食も祈りも献金も大事なことですが、それらは宗教的義務感からなのか、自分の見栄のため7日、それとも本当に自分の心の整えと神への礼拝や感謝からなのか、その動機が吟味されなければなりません。

それらの徳目は心の中に必要を感じ、心に神さまからの促しを感じながら向かう必要があるのです。

2) 新しい服の布切れと古着

5:36 そして、イエスはたとえを話された。

「だれも、新しい服から布切れを破り取って、古い服に継ぎを当てたりはしない。そんなことをすれば、新しい服も破れるし、新しい服から取った継ぎ切れも古いものには合わないだろう。

この例えは、ある意味でその当時の宗教観についての批判と考えることができます。イエス様は今までの宗教的な枠組み、その生き方を古い服と語ります。

そして、イエス様の教えと生き方を新しい服と考えて語っています。

イエス様が教えている神の国の福音の一部だけをってきて古くから習慣化している掟的な宗教にはめ込もうとしても、それは破綻してしまうということです。

昔の伝統をまったく変えようとせずに、イエス様の教えの良い部分だけ気に入っている部分だけを利用しようと思っても、それはきっとどちらをも壊してしまうことになるのです。

アンバランス、統一性のなさ、不自由な教理、生き方を押し付けることになってしまうのです。

私たちは古着を脱いで、新しい服の一部ではなく、服の全部を身につけなければなりません。

どこからどこまで、全部キリストの教えの中にさらされる必要があるのです。

古着を脱ぎ新しいもので身を包むことが必要なのです。それは、キリストによる贖いによって罪が赦され、神の用意してくださった義の衣を着せていただき、キリストと共に生きるという事の中に実現します。

にもかかわらず、私たちは、古着に愛着を感じ、それが律法主義を要求するものだとしても、それに近寄って、戻っていくことが多いのです。

ある意味で古い着物に馴染んでいるからです。

新しい着物に馴染むためには、十字架のイエス様をいつも救い主として信頼し、赦されていることを感謝しながら「イエス様的人格、働き、教え」に触れることが一番重要です。

3) 新しい革袋

5:37 また、だれも、新しいぶどう酒を古い革袋に入れたりしない。そんなことをすれば、新しいぶどう酒は革袋を破って流れ出し、革袋もだめになる。

5:38 新しいぶどう酒は、新しい革袋に入れねばならない。

5:39 また、古いぶどう酒を飲めば、だれも新しいものを欲しがらない。

「新しいぶどう酒」とはイエス様の「神の国の福音」「恵みによる救い」それを入れるためには「厳格な律法主義であるふるい革袋」では耐えられないのです。弾力性、柔軟性がなさすぎるからです。新しいぶどう酒は新しい革袋に入れなければ破裂してしまいます。

これはそれまでの厳格な宗教的枠組みから脱して、イエス様の福音を分かち合う「教会」のことを指しています。

それまでの「神殿と会堂と律法主義」という土台ではなく「主イエスへの賛美と礼拝、恵みの御言葉の分かち合いと聖餐」を土台にした教会が必要なのです。

そして、もっともっと人と人との「絆や分かち合い、支援、寄り添い」など柔軟な関係の深まりの中でイエス様の福音は充満していくものなのです。

律法主義で縛ろうとしたら、その集団は破綻してしまいます。

最後の節には不思議な言葉が出てきます。

5:39 また、古いぶどう酒を飲めば、だれも新しいものを欲しがらない。

ここにある古いぶどう酒とは、つまり、新しいぶどう酒であるイエス様の教えの土台に流れている、昔からずっと教えられてきた神の御言葉に貫かれている神の愛と恵み、その贖いと赦しみよる救いの約束など、いわば熟成された「神の恵みの真理」のことです。

旧約にも新約にも流れている神の契約、誠実な愛、救いの奇跡などそれらが古いぶどう酒にはふんだんに含まれているのです。

まとめ：

聖書を学び、キリストを味わうというのは、まさに「花婿を喜ぶ友人たちの心に似た意識をもたらします。また斬新さ、どんどん変化し豊かに熟成されていく神の愛の影響、もっともっと根源的なものが知りたくするような奥深い教えと神秘が教会における礼拝や学びの中に溢れているのです。ただし、人の権威や金儲けではなく、キリストがそこに臨在しておられるなら。

そして、キリストの新鮮な恵みの福音はふるい、律法主義的な形式に当てはめようとしてもうまく行かないものだと言われてきます。

新しいぶどう酒は新しい革袋に入れなければ保存できないし、ぶどう酒も革袋も無駄になってしまいます。

新しいキリストの神の国の福音は、それを受け止める組織自体が変わらないと受け止めきれないもの、そのくらい影響力や変革力のあるものなのだと教えられます。

その福音の斬新さは、今もどんどん新鮮さを加え、社会に対する様々なメッセージを広げ、いわゆる昔のままの教会の体質では受け止めきれないものになっているはずなのです。

古いものを全部否定するわけではありません。

でも、新しいものの新鮮な浸透を妨げているものが古く硬化した体質だとしたらその部分は、古い革袋と認識して、新しいものにして頂く必要があります。

聖霊が天から降ってきたのは、まさに新しい革袋、新しい集合体を作るためでした。その中心は「イエス・キリストを救い主、主として礼拝する群れを集める」という重大なテーマがありました。聖霊は今、目に見える形での集合体ばかりでなく、「ここにいないけれど、いる」という目に見えない絆による「集合体」をお作りになっているような気がしてなりません。

そこにあるのは「信頼と愛」「神と人への愛。そして神に対する信頼と相互の絆による支援的交流」「信仰と希望と愛による霊的一致」などなど。

直接会うことが難しくなっても教会はなくなりません。目に見える建物や交流は変化し、消えることもあります。でも、霊的な絆を原点に据えた時、それは常に存在するのです。

新しいぶどう酒は、圧倒的な「あたらしさ」を持って、私たちに迫ってきます。

そして、新しい革袋のあり方も、まさに今、この時代に問われているように思えてなりません。

常に新しい神の恵みを、常に整えられた新しい祝福がありますように。

**

MACF 礼拝映像はこちらです

<https://youtu.be/PJWd4rdRtIA>